

教育総合センター だより

NO. 162

令和 3. 12. 1



「人生に無駄はなし」

尼崎市立南武庫之荘中学校
校長 屋敷 成治

1 はじめに

本校は今年で創立 50 周年を迎えます。当時、武庫中学校と立花中学校の生徒数増にともない、水堂小学校の全域、立花西小学校と武庫南小学校の一部を校区とし、1 年生のみの 271 人、7 学級、教職員 20 名でスタートしました。高度経済成長の最中、社会変遷の影響を受けて学校現場はいわゆる荒れた状況にあったと聞いています。それから約半世紀が経ち、諸先輩方や地域、関係諸機関の皆様のお力添えがあり、現在は学業と部活動の両面で優秀な成果を上げ、地域に誇れる学校となりました。第 16 代校長として、この素晴らしい学校に身を置き、学校経営に携われることは誠に感慨深いことであります。

2 思い起こせば

50 年前といえば、私は小学生。公務員の父、専業主婦の母、姉というごく普通の家庭に育ちました。決して裕福ではなかったけれど、テレビや写真がカラーになり、360cc の自動車が家にやってきて、周囲の目まぐるしい変化にワクワクしたことを覚えています。

大学生になると、お小遣いや学費の一部を稼ぐため、様々なアルバイトをしました。初めは定番の新聞配達。雨の日も風の日も朝 3 時に起き、自転車ですべて配達します。続いてライブハウスでバンドの興行。チケットを売った分が給料になるのですが、無名のバンドが売れるわけもなく、ただ同然で家族や友達に買ってもらうのがやっとでした。3 年間続いたのは、百年以上続く老舗酒屋の配達と集金。お得意さんが多く、お中元の頃は注文が殺到し、ビール 10 ケースを担いで 4 階まで

何度も階段を往復することもありました。

その他、教材販売セールスや喫茶店、家庭教師など様々な経験をさせてもらい、社会の仕組みを少なからず学びました。一方、勉強では、卒業単位がかかったフランス語Ⅳ。フランス人講師による日本語なしの少人数 90 分授業。勉強が苦手な生徒の気持ちがよくわかりました。いずれにしても、学生時代を満喫できたのは、中学・高校時代に厳しい運動部活動で身に付けた体力と精神力のおかげです。

3 教師になって

教師生活 37 年間を振り返ると、ページが幾らあっても足りません。新卒初の文化発表会は、展示や新聞作り、クラス劇・合唱を各担任が 1 人で 1 か月間指導します。放課後は、職員合唱と劇の練習があり、帰りが深夜になることもよくありました。部活動は土日の休みがなく、平日も夜遅くまで練習し、その上に生徒指導や飲み会にも追われ、怒涛のように時間が過ぎました。業務改善どころか授業準備は何時していたのでしょうか。

今、校長になって 5 年、これら全ての経験が私の人生の精神的支柱となっています。さらに、私がピンチの時は、これまで出会った先輩や保護者・地域の方々、教え子までもが不思議に現れて助けてくれます。

今、教育界では IT 化、効率化がどんどん求められていますが、多くの経験があって初めて省くことがわかったり、無駄や失敗から学ぶこともあります。人生百年。失敗を恐れず、仲間と挑戦し続けてください。きっと実り豊かな人生になります。

☆☆教育総合センター 研究部会&研修の紹介☆☆

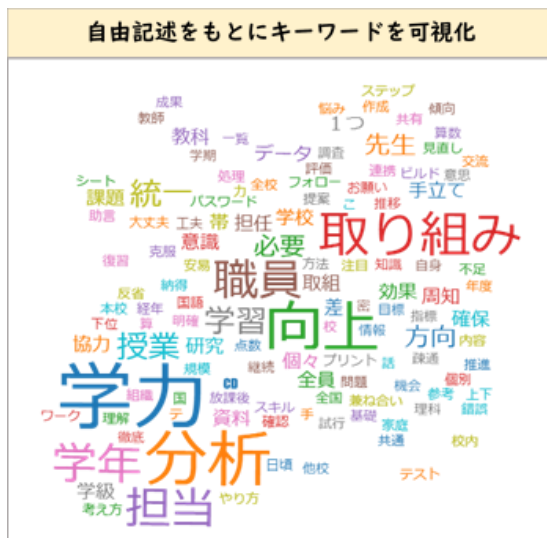
授業力向上研究部会



授業力向上研究部会の第1回が11月11日、教育総合センターで開かれました。全小中学校の担当教員が集まり、授業改善に向けた取組等について、情報交換しました。

研究部会の目的は、あまっ子ステップ・アップ調査の結果を活用し、授業改善の取組を検証し、改善する方法を見出すことです。この日の情報交換では「D層支援のために、放課後学習で『予習』を導入した」(小学校)、「年度初めに、調査結果に基づいて教科会ごとに目標を設定し、11月末で達成状況を確認する」(中学校)など、ステップ・アップ調査を活用した好事例が全体共有されました。

研修後のアンケート(自由記述)について、頻度が高いキーワードほどフォントが大きくなるように集計すると、次のようになりました。(学び支援課係長 藤井 俊史)



教職経験者(2年次)授業実践研修



2年目教員を対象とした授業実践研修が10月20日、浜小学校で行われ、同校の北田寛人教諭が3年生の国語の授業を公開しました。

教材は「すがたをかえる大豆」。本時の目標は「学習内容をもとに、事例を挙げる順番を決めることができる」です。子どもたちは、豆腐や味噌など、「すがたをかえる大豆」の説明順の理由について考えました。授業後の研究協議には、4人が参加しました。

<良かった点>

- ・先生が自然体で授業をしていたことで、子どもたちも自然体だった。
- ・子どもから意見を引き出していた。
- ・書き方が示されていて、書きやすかった。

<疑問点>

- ・筆者の意図にせまるには、どんな発問・展開が必要だったのか。

<指導・助言>

「すがたをかえる大豆」の学習では、筆者の書き方の意図・工夫を捉えた上で自分の書き方に生かすということがとても大事になってきます。子どもたちに「筆者の書き方の意図・工夫」を捉えさせるために、教師の助言やワークシートを工夫する等、様々な指導を複合的に取り入れていく必要があるのではないのでしょうか。

(学び支援課指導主事 林 玄典)

☆☆☆人権週間を通して☆☆☆

毎年12月4日から10日までは「人権週間」と定められ、全国的に人権啓発活動が行われています。各学校においても、人権について考える様々な取組が展開されています。

文部科学省の「学校における人権教育の目標」では「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」と示されています。しかし、児童生徒に人権感覚を身につけさせていくためには、人権の大切さについて言葉で説明するだけで身につくものではないと考えています。

今年度、人権教育担当になり小・中学校で様々な人権教育の取組が行われていることを知りました。一部ではありますが、その取組を紹介します。

① 外部講師による講話

「こころの教育推進事業」における講話は、児童生徒に自分の生き方を振り返らせ、人権課題と真摯に向かい合わせる機会となる。

令和3年度 講演会の主な内容

- ・性別は男と女だけでなく、多様性があることを知り、自分らしく生きることとはどういうことなのかを考える。
- ・性に関する正しい知識を学び、命の大切さを知る。
- ・スマートフォンやインターネットにおけるトラブルを具体的に周知し、自身の生活を振り返る。

②人権作文・人権標語・人権ポスターへの取組

日常生活の中で感じたことや考えたことを作文に書いたり、作品作りに取り組んだりすることを通して、人権課題と向き合い、豊かな人権感覚を身につけることができる。

③道徳科の時間の活用

内容項目「生命尊重」「公正・公平」等人間尊重の精神とかかわりの深い内容を設定する。例えば、「生命尊重」であれば、発達段階を踏まえつつ、生きることを肯定するような内容の教材を選定する。

人権教育とは、人権の授業、人権啓発活動だけではなくありません。児童生徒が、自らの大切さや周りの人の大切さが認められていることを実感できるような環境を作っていくことが大切であり、普段の学校生活・授業の根底にあるものとして捉える必要があると考えています。

そして、取組を行うことがゴールではなくスタートであること、もしくは人権教育を推進する一つの過程であることを意識して、児童生徒の変容や考えの高まりを見取り、現在行っている取組の工夫改善につなげていただければ幸いです。

最後に、様々な人権問題に対する課題を横断的にとらえ、人権施策を総合的かつ計画的に実施するため、令和3年6月に策定された「尼崎市人権文化いきづくまちづくり計画」の内容をイラスト等を用いてわかりやすく表現した

「じんけん学ぶ本」についても、あわせてご活用いただければと思います。



(学校教育課 人権教育担当係長 秋山 紀子)

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ね下さい。

※12/1～3/31まで、ひと咲きタワー空調工事の為、来所しての貸出・閲覧はできません。

(3F 教育情報コーナー)

【新着図書】

- ・『学校ICTサポートブック』 教育あるある探検隊 著／学事出版
- ・『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー②』
ブレイディみかこ 著／新潮社
- ・『尼西ミラクル』 小笹雅幸 著／せせらぎ出版
- ・『学習評価の手引き』 田中博之 著／教育開発研究所
- ・『教科書名短篇 家族の時間』 中央公論新社 編／中央公論新社
- ・『学級経営ヒヤリ・ハット』 関田聖和 著／明治図書
- ・『使える学力の育て方』 富塚大輔 著／東洋館出版社
- ・『1人1台端末活用パーフェクトQ&A』 佐藤和紀・三井一希 編著／明治図書
- ・『自主学習の仕掛け大全』 福山憲市 著／明治図書

(担当 松浦)

☆教育総合センターは、知の宝石箱！ 「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

【本の紹介】

■『尼西ミラクル』（せせらぎ出版 2021年8月初版発行）

著者 小笹 雅幸：1951年4月生まれ 兵庫県立尼崎西高等学校野球部主将として、第50回、第51回全国高等学校野球選手権大会兵庫大会において連続準優勝、第41回全国選抜高校野球大会に出場、ベスト8。東洋大学、兵庫教育大学大学院、尼崎市立小学校教諭、尼崎市教育委員会、尼崎市立公立小学校校長、現在、尼崎市立小学校研究会講師。

元本市小学校校長であり、教育総合センター課長でもあった著者が、高校野球に奇跡を起こした尼崎西高校野球部を、当時の主将として、チーム一人ひとりを丁寧に紹介する形で書かれた1冊です。ナインだけでなく、女子マネージャーや監督さんも含め、エピソードたっぷりの記述で一気に読める力作です。

■『著作権ハンドブック』（東京書籍 2021年9月初版発行）

著者 宮武久佳：1957年生まれ大阪市出身 東京理科大学教授。専門は知的財産論、メディア論、文化資源論 著書に『知的財産と創造性』『正しいコピーのすすめ』等多数

大塚 大：1966年生まれ東京都出身 駒沢公園行政書士事務所所長、特定行政書士、1級知的財産管理技能士『著作権判例速報』メールマガジンを無料配信

GIGAスクール構想で、学校のデジタル学習の環境が整備される中、教育に携わる人たちにも著作権と知識が不可欠です。本書は、複雑な著作権法について、Q&A方式で、しかも専門用語を日常の言葉に置き換える工夫をすることでわかりやすく書かれています。

(担当 西川)